

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 21 年 5 月 21 日 (2009.5.21)

【公表番号】特表 2008-536633 (P2008-536633A)

【公表日】平成 20 年 9 月 11 日 (2008.9.11)

【年通号数】公開・登録公報 2008-036

【出願番号】特願 2008-507801 (P2008-507801)

【国際特許分類】

A 6 1 B 5/0402 (2006.01)

A 6 1 B 5/0408 (2006.01)

A 6 1 B 5/0478 (2006.01)

A 6 1 B 5/0492 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 5/04 3 1 0 M

A 6 1 B 5/04 3 1 0 N

A 6 1 B 5/04 3 0 0 J

【手続補正書】

【提出日】平成 21 年 3 月 19 日 (2009.3.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

心腔の内因性脱分極の発生を検出する方法であって、

デジタルサンプル点のストリームを含む、遠方界電位図 (F F E G M) 信号を入手すること、

前記デジタルサンプル点のストリームのサブセットに振幅変化判定基準を適用することによって、内因性脱分極の可能性がある事象を特定することであって、該サブセットは、前記ストリーム内の少なくとも 3 つのデジタルサンプル点を含むこと、

前記特定された内因性脱分極の可能性がある事象から、振幅しきい値判定基準未満の振幅を有する、前記内因性脱分極の可能性がある事象を外すことによって、第 1 の、更新された、特定された内因性脱分極の可能性がある事象を生成すること、

前の内因性脱分極の直後のブランピング間隔期間内に発生する、前記内因性脱分極の可能性がある事象を、前記第 1 の、更新された、特定された内因性脱分極の可能性がある事象から外すことによって、第 2 の、更新された、特定された内因性脱分極の可能性がある事象を生成すること、

前記第 2 の、更新された、特定された内因性脱分極の可能性がある事象を、前記遠方界電位図 (F F E G M) 信号からの検知事象としてマークすることを含む、心腔の内因性脱分極の発生を検出する方法。

【請求項 2】

前記振幅変化判定基準を適用することは、

サブセットを特定することであって、該サブセットは、

a) 前記サブセット内の第 1 の点から第 2 の点まで生じる振幅の増加、及び該サブセット内の該第 2 の点から第 3 の点まで生じる振幅の増加であって、いずれの増加とも第 1 の指定された量以上であること、

b) 前記第 1 の点から前記第 2 の点まで生じる振幅の減少、及び該第 2 の点から前記第

3 の点まで生じる振幅の減少であって、いずれの減少とも第 2 の指定された量以上であること、

c) 前記第 1 の点から前記第 3 の点まで生じ、第 3 の指定された量よりも大きな絶対値を有する振幅の変化と

のうちの 1 つを含む、サブセットを特定すること、

前記特定されたサブセットの前記第 1 の点を、前記内因性脱分極の可能性がある事象としてマークすること、

最も大きな絶対値を有する、前記内因性脱分極の可能性がある事象それぞれの指定された時間間隔内にあるデジタルサンプル点を、内因性脱分極の可能性があるピーク事象として特定すること、及び

前記デジタルサンプル点のストリーム内の全てのサブセットを解析することを含む、請求項 1 に記載の心腔の内因性脱分極の発生を検出する方法。

【請求項 3】

心腔の内因性脱分極の発生を検出する方法であって、

デジタルサンプル点のストリームを含む遠方界電位図 ( F F E G M ) 信号を入手すること、

前記遠方界電位図 ( F F E G M ) 信号から導関数信号を生成すること、

前記遠方界電位図 ( F F E G M ) 信号内のピークを指示する、前記導関数信号内のパターンを特定すること、

最小勾配判定基準を満たさない大きさを有する、前記導関数信号内の前記特定されたパターンを、さらに解析する対象から外すこと、

前記導関数信号の残りの前記特定されたパターン内の極性変化点の近くにおいて発生するような、内因性脱分極の可能性がある事象を特定すること、

振幅しきい値判定基準未満の対応する遠方界電位図 ( F F E G M ) 振幅値を有する、前記内因性脱分極の可能性がある事象を、該内因性脱分極の可能性がある事象としてさらに検討する対象から外すこと、

前の内因性脱分極直後のブランキング期間内に生じる、前記内因性脱分極の可能性がある事象を、内因性脱分極の可能性がある事象としてさらに検討する対象から外すこと、及び

残りの前記内因性脱分極の可能性がある事象を、前記遠方界電位図 ( F F E G M ) 信号からの検知事象としてマークすること

を含む、心腔の内因性脱分極の発生を検出する方法。